



仙北市

# 議会だより

No.29

2013年2月1日 発行  
発行 仙北市議会  
編集 仙北市議会  
広報編集・特別委員会

## 12月定例会・主な内容

仙北市議会12月定例会…	2～3
一般質問……………	4～11
常任委員会……………	12～14
議会報告会……………	15
傍聴席・編集後記……………	16

## 議会は蘇るか

仙北市議会議員 佐藤 峯夫

昨年の議会報告会の結果を読み、議会に対する市民の関心と評価の低さに愕然とした。

そして、議会不要論の発生を強く感じ、議会の存在価値をあらためて訴えたい。

- 一、法改正による首長の権限強化により、首長と議会との力関係の差が大きい。
- 一、そのため、首長の陰に隠れ、議会が見え難い。(長のパフォーマンスが大きいほど)
- 一、結局首長と対等な立場に立てる議会の資質の向上が急務。

以上が、今日の議会の現状分析である。そこで、蘇り策として次の点を申し上げたい。

- 一、首長の下請け(?) 機関の返上(議案に反対する勇気も含めて)
- 一、議案に対する徹底討論(客観的視野に立って)
- 一、修正案を堂々と提出できる実力と勇氣

少なくとも、以上の3点を持つ議員集団であれば、議会の動きが市民に率直に伝わり、議会の必要性も認められよう。但し、議会としての資質の向上には、市民による選挙が大きく起因する。選挙は、必ずしも優秀な人材を選ぶとは限らないからだ。

言い換えれば、「市民の資質≡議員の資質」とも考えられる。

志高く使命感に燃ゆる人材を生み出す源は、市民にあることを自覚してほしい。以上、議会の現状分析と改善策を思うがまま、申し上げ、年頭の所感といたします。(1月4日記)

# 第5回 仙北市議会12月定例会

平成24年12月3日  
最終日：12月25日

12月定例議会補正予算額 3千3百9万6千円  
一般会計補正後予算額 191億6千7百26万9千円へ

## 予算常任委員会

### 主な補正予算の内訳

#### 一般財源

●クニマス里帰りプロジェクト事業費 129万4千円

山梨県水産技術センターで人工孵化したクニマスの稚魚を、田沢湖ハートハーブで3月10日から24日まで生態展示する諸経費。

●保育園入所待機児童等支援事業費補助金 103万4千円

認可外保育施設を利用した場合の保護者負担差額分の補填。

#### ●塵芥処理費 1078万3千円

田沢湖最終処分場の水処理計測計器他交換一式

#### ●危険空き家対策費 219万円

条例制定までの暫定的な危険家屋解体補助金。

#### ●国、県支出金

●戸別所得補償経営安定推進事業費補助金 1765万6千円

### 農地集約協力金(経営転換)

●大規模肥育牛団地整備事業費補助金 1020万円

中川地区、上萩ノ台に建設予定の牛団地への補助金  
県支出金680万円、一般財源340万円

#### ●現年補助災害復旧事業費 670万円

7月15日～16日にかけての暴風による農業施設の災害復旧事業

#### ●国、県支出金

市債 190万円  
一般財源 84万4千円

◎本定例会において予算常任委員会に付託された案件は、平成24年度仙北市一般会計補正予算(第6号)1件である。

議案質疑の後、予算常任委員会の審査は、会議規則第95条の規定により、総務文教、市民福祉、産業建設の各常任委員会の分科会として設置し、それぞれの所管に対する款、項ごとに分

担して審査を行った。

○総務文教、市民福祉、産業建設の各常任委員会、委員長より分科会の審査の経緯と結果の報告を受け、その後、会派質疑を行い討論、採決を行った。

○議案第114号、平成24年度仙北市一般会計補正予算(第6号)に対する修正案の提出。

本議案の審査過程で2名の委員より大規模肥育牛団地整備事業費補助金を減額する修正案が提出され原案と併せて審査を行った。

#### 提出理由

「現時点で、事業の実施予定とされている地域住民の理解が得られていない」とし一般財源の340万円を予備費へ組替え、さらに県補助金の680万円を削除するもので、結果として、今回の補正予算案の総額から680万円を減額する修正案である。

#### 反対討論

所管の分科会委員長より、地域住民の理解得ずして予算執行すべ

きでないとの意見が付されている。さらに本事業は、6次産業化推進の礎となり、ひいては畜産振興のモデルケースとしても期待される。

仙北市がその中心となり県内畜産農家及び、稲作農家への波及効果も考えられる。よって当該事業を削除する修正案には反対である。

#### 賛成討論

事業自体は、地域農業に大きく貢献し特に畜産振興に寄与するものと期待する。しかし地域住民が置き去りにされ



予算委員会審査風景

ている。ある程度の合意形成がなされてから、予算を措置すべきである。よって、地元意向が判断出来ない段階での修正予算案には賛成である。

### 採決

以上の討論の後、採決の結果、修正案については、賛成少数により否と決定した。

# 決算常任委員会報告

## 議案第92号 平成23年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定 について

### 各分科会の意見・要望要約

- 1、市のやるべき事と運営体が担う事業とのすみ分けの明確化、二重行政と受け取られる事の無いよう、又、補助金の交付で、地域内の「助け合いの精神」を後退させる事の無いよう、充分な事業の精査を行う事
- 2、一時保育が均等に利用可能な保育士の配置を検討し、保育需要に対応する事
- 3、墓地管理手数料の慢性的な収入未済を打開する為に、継承者不明の場合には、

原案である議案第114号、平成24年度、仙北市一般会計補正予算第6号については、賛成多数により原案を可とすべきものと決定した。  
※本議案、歳出6款1項4目畜産振興費、大規模肉用牛肥育団地整備事業費補助金1020万円に対し産業建設常任委員会より意見が付された。  
(伊藤邦彦記)

- 4、高齢者の方々が元気に、働けるようシルバー人材センターと連携し、同センターへの補助制度と事業の充実に努める事
- 5、総合産業研究所が商標登録した商品の具体的活用方法を検討し、一定の成果を上げるよう努める事
- 6、市道の維持管理において道路脇の除草等の軽作業等は、市民の協力を仰ぐなど、対応策を検討する事
- 7、毎年災害復旧を強いられる松木内川河川公園の抜本的な対策を図る事

## 表紙の説明

表紙写真は北浦環境センター焼却炉最上部。平成10年に角館町外三か町村公衆衛生施設組合の事業として、およそ42億円を投じて竣工した。現在は仙北市のごみ処理施設。処理能力は51ト/日、粗大ゴミ14ト/日。  
(阿部則比古記)

### ● 反対討論 (不認定理由)

- 1、地域運営体の活動事業への交付金について本来、市で行うべき事業とのすみ分けが不明瞭である。
  - 2、急激な高齢化の進展にもかかわらず、お年寄りが、生きがいを見出せる施策が不十分である。
  - 3、木質バイオマス施設管理において、瑕疵担保期間が終了した後のトラブル等に対応する為の納入業者との経費について覚書が交わされていない事の理由で反対である。
- ◎採決の結果、賛成多数で認定すべきものと決定  
(熊谷一夫記)

## 平成24年 第5回 仙北市議会定例会 (招集日：12/3 最終日：12/25)

凡例：賛→賛成、反→反対 議決結果・議員評決 (議長除く)

議案番号	会派及び氏名等 件名	議決 月日	議決 結果	民 政 会 議				む 翠 会			侍 志 の 会			仁 政 ク ラ ブ		日 本 共 産 党		会 派 に 属 さ ない 議 員				
				伊藤邦彦	阿部則比古	狐崎捷瑠	門脇民夫	小林幸悦	藤原助一	田口喜義	荒木田俊一	小田嶋忠	八柳良太郎	青柳宗五郎	佐藤直樹	黒沢龍己	高久昭二	平岡裕子	高橋豪	熊谷一夫	田口寿宜	安藤武
議案第92号	平成23年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定について	12.3	原案認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	欠	反	賛	賛	
議案第114号	平成24年度仙北市一般会計補正予算(第6号)	12.25	原案可決	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	反	賛	賛	賛	賛	

議員提出 議案第16号	意見書の提出について(「ゆきとどいた教育」の前進をもとめる意見書)	原案可決	全会一致
議員提出 議案第17号	意見書の提出について(地域経済と雇用対策強化のため地方財政の充実・強化を求める意見書)	原案可決	全会一致
請願第3号	県道広久内角館停車場線菅沢踏切付近における道路改良について	採択	全会一致
請願第4号	伝建群保存地区における保存整備計画の早期実現を求める請願書	採択	全会一致

# 一般質問



## ・国の放射能測定器貸出について

民政会議 狐崎捷琅 議員

### 国の放射能測定器具貸出について

横手市、大仙市では、市独自で放射能測定器

を購入し、給食の放射線量を測定していると聞いている。

本市でもこの放射能測定器が欲しいと思っていた一市民が、昨年消費者庁で各自治体に貸与していたことをインターネットで知り、今年も貸与があるかどうか消費者庁に聞いてほしいと市役所の担当部署を訪れお願いした。

その時、担当部署の方は、「分かりました。」と答えたと

うだが、1か月経過しても何の返事も来ないので、市長と話し合う機会があった折に市長に「お願いした件はどうなったのか」と聞いた。市長は、「初めて聞いた」と答えたそうである。

ここに大きな問題が潜んでいると思うので質問したい。  
① 市民生活担当部署は、市民からの要望にたいして「分かりました」と言いながらどのように対応したか。説明責任を果たしたかどうか。

② もし、部長会議で話し合っただとすればどのような話し合いだったのか。議事録があつたら見せて欲しい。

③ 昨年、消費者庁で無料で全国の自治体に貸し出すと決めたときにどうして手を挙げなかったのか。貸し出していることを知らなかったのか。それとも知っていたが、勝手に無理だろと自主規制したのか。実は最近分かったことだが手を挙げた全部の自治体にこの170万円もする測定器が貸与されたそうである。手を挙げていけば仙北市でも貸与されていたことにならぬ。明らかに市の不勉強だと思

わないか。給食に放射能測定は必要だと思うが市独自で購入の予定はないか。

答弁 10月17日にその市民の方が訪れて議員の述べた趣旨のことを担当部署でお聞きした。

機器さえあれば自分たちは講習を受けてきたので自分たちで測定できるともお話していた。その方には、内容を調べて検討するという趣旨のことを部署ではお伝えした。お話を聞いた時点では、担当部署は不勉強なため消費者庁の貸与については承知して

いなかったし、担当者に確認させたところ全国の自治体に累計で394台あつたことも確認した。

担当部署では事業の目的から一般市民への貸出的な運用は出来ないものと考え、庁内の関係部局で構成されていた災害廃棄物検討会に報告したが会議録はとっていない。こ



食品の放射能測定器

の件に対しての市長報告は受けていない。

担当者として市民の方に説明責任を果たしていないことであり深く反省している。尚、消費者庁へ返却があつた場合の再配分と秋田県で貸与の情報も得ているので努力をしていきたい。

### 地震計設置の必要性について

質問 先日12月4日、7日の地震は1423年に

あつたと思われる西明寺の門屋、西長野、強首の断層が関係していると思われる。今後仙北地方に地震が起こるとすれば抱き返りから中生保内に通ずる断層とこの2つかもしれないと言われている。そこでこの2つの地域に関係機関と話し合いし地震計を設置する必要がないか。

気象庁、秋田気象台防災業務課に地震計について伺ってみた。測定器が近隣にあつた場合振動情報の解析に支障を来す場合もある。しかし、今後、新たな変動条件が加わることも考えられるので検討していきたいとの話であつた。今後秋田地方気象台と連携を密にしていきたい。

### 種苗交換会農機具会場について

質問 種苗交換会の農機具会場を何処に招致しようとしているか。

答弁 可能性のあるのは角館玉川エリアと田沢湖スキー場エリアだと思つている。交通渋滞、開催時期の天候状況、主会場と第2会場との利便性を考慮に入れ、地元JA、市内の関係団体協賛会、主催者JA秋田中央会の判断で決定することになる。

### 角館の民謡「姉こもさ」をもっと認知させる努力を

質問 角館が誇れる民謡「姉こもさ」をもっと広めていくべきでないか。この唄は日本各地で唄われて大変有名である。残念だが角館ではあまり唄われていない。「姉こもさ全国大会」なども考えてもいいと思うがどうか。

答弁 (教育長) 「姉こもさ」については私もあまりよく知らないでネットで調べたらマイナーどころかメジャーな唄で香西かおりや三善英史なども唄っていた。今後広い見地から検討していきたい。

(阿部則比古記)

# 一般質問



## ・仙北市の深刻な借金 依存体質はどうか

議員 田口喜義 翠巒会

付税頼みである。深刻な借金依存体質の常態化といわざるをえない。

恒常的財源確保策は。

**答弁** 地方公共団体が行政の自主性・安定性を高め真に地域の担い手となるためには安定した自主財源の確保が何としても必要。

今年度導入した「ページー」の普及促進やコンビニ収納の検討をしながら納付環境の整備促進をはかる。また、県の地方税滞納整理機構への派遣及び徴収委託の継続、徴収嘱託員の増員検討等引き続き積極的な滞納対策をとる。

財源については市民所得の向上がなければ自主財源の確保は難しいというのが私の考え方であるが、その為の所得向上対策、産業雇用環境の改善などに新たな政策を打ち出す必要性を痛感している。

**質問** 借金返済、長期リースへの影響は。

**答弁** 行政改革は定員管理の推進、福祉施設の民間委託等取り組んでいる。公債費は合併時の280億円が平成23年度末240億円と40億円の削減、また、人件費は41億7千万円から38億8千万円と約2億9千万円の削減、

公債費は伸び  
市税は落ち込み  
**質問** 仙北市の借入金  
の返済は合併時17年と23年度決算の比較をみるとよくなる。歳入に占める公債費（借入金）の割合は16.3%30億円から17.5%32.7億円と増加。  
市税においては逆に28.3億円15%から26.3億円13.5%と落ち込み更に地方交付税は77.6億円41%が97.7億円51.1%と歳入の半額を占め、市税をつぎ込んで借入金返済が出来ず国の交

市債償還費が23年度ピークで32億7千万円だが今後は減少する。職員給与費は退職と採用の差額分が今後の財源として見込める。公債費の支出は依然高いので計画的削減をはかるとともに、長期リースについても業務の標準化と組織内事務改善の推進を図り、効率化に努める必要がある。

しかし、他の自治体行政と比べても、当市はまだまだそのレベルに達していないものが多数見られる。現在の状況改善の為にはある程度広範な分野で予算の配分、事業の実施も必要ではないかと思う。

**質問** 予算編成の組み方が、いつも9月に冬季交通対策費のように大きなものを組むが当初では組めないのか。予算編成として適切か。

**答弁** いままで歳入の確定、支出負担行為の確認行為等の内容等から見て契約時により債権債務の確定したも

のについて総計予算に基づいて行ってきた。適正を欠くものではないと認識している。しかし、当初予算で財源捻出できないか努力してみた

**質問** 市職員の類似別団体から見た適正な職員給構成比と職員数とは。

**答弁** 平成23年度の普通会計の人員費割合は類似団体平均が16.8%当市は20.7%、1万人当たり職員数は類似団体94.86人、当市は145.95人、職員数は類似団体が平均287人仙北市が441人であるので154人多くなっている。

その要因は総務部門と民生部門の比較で多く、分庁舎方式による地域センターやサポーターセンター、出張所職員の配置、直営保育園の運営に要する職員配置と分析する。

財政圧迫の要因となっていくことは強く認識するが、行政面積が大変広いし、類似団体比較は人口と産業構造が基本比較が申し上げにくい。

**質問** 田沢湖マラソンは昨年の反省に立ち駐車場確保により4850名の参加者があり敬意を表する。

**答弁** (教育長) 大会申し込みと同時に実施したアンケートにより駐車台数を3000台と推計。ネットや郵便物の申し込みが5300

を超えそうだと推計されたところで、昨年の駐車場まで合わなかった経験からそれを絶対避けるため苦渋の選択として締め切り前の制限をさせていただいた。

もうひとつはフルマラソン区間が大変な混雑なのでその参加者を制限した為である。

**質問** 1万人規模の大会にするには視点をかえたらどうか。例えば来年種苗交換会用にアキモク跡地に造成される駐車場は2000台位入る。又観光的要素が大きいがどのように思うか。

**答弁** (教育長) 規模拡大の意気味では駐車場の話は大変な朗報である。実行委員会のスタッフの充実、26年で終わる公認コースの問題など喫緊の課題は多いがもともと観光とつながりが強い大会なので観光課との連携はもとより市当局にも相談しながら考えていく。



田沢湖マラソンで活躍するボランティア

(八柳良太郎記)

# 一般質問

## ・大規模肥育牛団地の誘致について



仁政クラブ 黒沢龍己 議員

業側が上萩ノ台を強く望まれたことが今にいたる経緯である。

**質問** 住民に対する説明が、遅いと思うが。

**答弁** 11月初めに土地の所有者から協力願える旨のお話をいただき、同月中旬に県、JA、銀行からの支援を取り付けた。その上で地元への説明に入った。

種々の協議をギリギリの中で進めてきたが、その最中であれ、地元皆さんへの説明とご意見をいただく機会を持つべきであり、深く反省し又、お詫びを申し上げたい。

**質問** 住民の理解を得ずしても地権者の同意があれば本事業を推進するのか。

**答弁** 地域の皆様のご理解を得ずに事業を進めることは、適切でない。例え多くの時間を要してもご理解とご協力を得られるよう、最大限の努力をしていく。

**質問** 誘致されるとする近場で葉タバコ栽培がなされていることを承知しているか。

**答弁** タバコ生産農家方々のご不安はよく承知している。今、たくさんの関係団体が実例を含めて状況の調査をしている。後の説明会に

おいてお話しできると思う。

**質問** 飼料及び牛等の現地への搬入ルートは、その事については、まだ具体的な協議に至っていないが、飼料は石巻市、牛は北海道、又由利本荘市からと思われるので国道46号線、角館バイパスから中川地区を通るルートが考えられる。

**質問** 市長答弁によれば、同地区の道路は改良率も低い。大型車両が通ることになれば地域住民に与える不安や危険は計り知れない。それ等への対応を伺いたい。

**答弁** 地域の方々の安全確保は大変重要な課題であり、十分検討させていただきたい。

### 誘致しようとする(株)大平畜産工業の概要

設立	昭和54年3月
資本金	500万円
所在地	北海道河東郡鹿追町
事業内容	肉牛、農産物の生産販売。札幌市、鹿追町でレストラン経営
飼養頭数	交雑種 3600頭 黒毛和種 5000頭 計 4100頭

### 中川地区上水道計画について伺う

**質問** 一、角館上水道は何処の地域まで引き込めるか。

二、中川地区の上水道アンケート調査を再度実施する考えはないか。

**答弁** 土地の高低の関係が限界ではないかと考える。寺沢以北については、中継ポンプを用いての圧送も可能であろうと思える。

又、黒沢地区については、中継ポンプを用いても、困難だという見解をもっている。同地区には、平成19年に調査を行い、※事業を望む ※完備されれば加入したい ※飲用水に不安と不便を感じている等住民の要望が高い調査結果が出ている。今事業を進めているところであり再調査の必要はないものと考ええる。

中川地区の大字山谷、川崎、川原地区の末普及地区の解消を図るには、高い位置での水源確保が必要である。しかし、大場専用水道の余剰水量又、角館上水の送水可能範囲、これなどに検討を加えながら山谷川水源調査も合わせて検討してまいりたい。

(伊藤邦彦記)



肥育牛団地候補地（上萩ノ台付近）

大規模肥育牛団地の誘致について  
計画では、旧角館町山谷川崎上萩ノ台地区に1000頭規模の肥育牛団地を形成する。としているが次について伺う。  
一、本事業の誘致場所を上萩ノ台としたその理由は何か。  
**答弁** 食農官一体となり地域活性化を図りたいと企業誘致を目指してきた。県及び全農から北海道の大平畜産の紹介をいただき、同社と何度も協議の上、市内各地の候補地を見ていただき企

# 一般質問



・保育園での生活が  
親・子供にとって充実  
したものになるために

日本共産党仙北市議団 平岡裕子 議員

## 臨時保育士の処遇について

**質問** 保育園職員の内6割が臨時職員で対応せざるを得ない市の状況について、十分に理解できるが、臨時保育士に対する待遇は決して良いものとは思えない。過去にこの事について一般質問をした際に、改善をするという答弁を頂いたが、時間外手当・勤務手当を見直すだけにとどまった。理由を聞くと、他にパートや臨時で働いている職員がまだ多くいる中で、保育

士だけを改善する事はできないというニュアンスの返事を頂いた。

保育士の専門性を当局ではどのように考えているのか。また、賃金の見直しについて再度検討をされているのか。

**答弁** 保育士は保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、専門的知識、技術及び判断をもって子供を保育すると共に、子供の保護者に対する保育の指導を行うなど、極めて重要な仕事をしていると理解しており、子供達が社会に必要な習慣や知識、社会の一員として歩んで行く為の力や心、そして興味や感性を育てるように保育の中で子供達を導いて行く、大切な仕事をしていると認識している。

臨時職員の待遇改善については、賃金面では平成22年度は職員一律の単価であった



頑張る保育士さん

が、経験年数や資格によって階層別単価を設け、賃金アップを図った。近隣の状況を調べてみると、経験年数等の階層別区分はなく、本市よりも低い賃金単価であった。更なる賃金の見直しについては、現在議論が始まっている少子化対策・子育て支援プロジェクトチームでも議論があるようなので、これを見極め、参考にしたい。

## 就学援助の充実について

**質問** 平成23年度決算で、本市では要保護者が194人と

なっていた。保護世帯と要保護世帯の近年の推移はどのようになっているのか。

**答弁** 平成21年度から23年度までは増加傾向にあったが、平成24年度12月1日現在では、昨年度より減少している。人数は、要保護・準要保護世帯合わせて177人となっている。

## 就学援助制度の活用

**質問** について、準要保護世帯に対しての対象額、申請手続き、補助方法、周知の仕方などのようになっているのか。

**答弁** (教育長) 支給対象は、学用品費、通学用品費、

校外活動費、修学旅行費、給食費、医療費などで、対象額は国の支給基準に準じている。周知については、毎年2月の広報で援助内容、手続方法等について周知を図っている。既に認定を受けている世帯には再申請の書類を郵送している。

また、年度途中でも随時受け付けている。国・県の基準はあるが、市の裁量に委ねられている場面が多いので、極力、色々な形で支援できるように進めている。

## 学校に納入する額は、義務教育なのに負担が大きい。例えば市立の小中学校であれば親が負担するべきか、市が負担するものなのか、十分考えていく必要があると思う。平成22年度からはクラブ活動費、生徒会費、PTA会費も要保護・準要保護世帯に対する就学援助に加わったが、本市での対応はどのようなか。

**答弁** (教育長) PTA会費、生徒会活動費、クラブ活動費については残念ながら支給をしていない。他市町村からも色々と聞いていますが、実施をしていない所が多い。

## ガレキ受け入れに伴う住民の不安を払拭するために

**質問** 学校給食で使用する食材の放射性物質濃度等、地場産以外の食材に関して、給食日より等を通じて公表はしているが、しっかりと不安を払拭できるよう、細やかな測定と公表をして欲しいという要望がある。その事に対し、市当局はどのように答えていくのか。

**答弁** 市の方で様々な情報収集を行い、県にある4台の測定器の内、県南地区と県北地区のものは使用頻度が高いが、中央地区にある2台については対応が可能ではないかという状況を聞いている。

消費者庁から地方自治体に貸出した測定器を、また別の自治体に貸し替えをする事についても、制度上は大丈夫ではないかという話しも伺っている。まずその測定器を活用する事が出来るかどうか、情報収集やお願ひも含め集中して対応を検討して行きたい。市民の安全・安心に配慮する事が市の責務だと思っている。

(田口寿宜記)

# 一般質問

## 行政改革と門脇市政について

稲田 修 議員



### 行政改革と門脇市政について

行政改革とは、小さな市役所を構築してき

らりと光る仙北市を創り上げていくものと思っていた。職員意識改革と門脇市長の政治姿勢を伺い、行政改革の到達点は何なのか質したい。

市長は、メディアの方にばかり向いて市民に目を向けていないのではないかと。部長等会議の「見える化」と議会への情報開示が必要ではないか。財源の確保、遊休地の売却等を行っているか。行政改

革と仙北市の目指す到達点は何か。

**答弁** ①メディアに露出する案件が仙北市には多かった。いい話題ではなく、市長として説明を尽くすという対応が多い部分もあり、それが、市民に出たがりで見えているかもしれない。②毎週月曜日に部長会議を開催している。その議事録も開示している。議会への開示についてはその手法について少し考えさせていたきたい。③【総務部長答弁】財源としての遊休地の売却は行っていない。今後、未利用地の活用と売却できる遊休地の洗い出しについてきめ細かに行ってまいりたい。④仙北市が目指す将来



キラリと光る市を目指して

の到達点は何か。これは、仙北市が自立する自治体として、後年度も仙北市として事業を起こしていける自治体を創ることだと思う。この中心になるのは市民の方々と行政がどれだけ連携し、協働できていくかにかかっていると思う。

**地域運営体の活動について**  
**質問** 決算委員会で指摘された二重行政の問題。地域内で培われた助け合いの精神が失われている件・運営体で各地域団体に補助金支出の件・日当支払いの件等考えられない事が現状として起きている。この事を市長としてどう考えるか。

**答弁** 二重行政ではないかという事と500万円の交付金が適切に活用されているかの2点の指摘と。事業のすみ分けを行う為に運営体を実施する事業に関するガイドラインを作り地域運営体連絡協議会で来年度から適用する事で承認をいただいた。上限500万円の使い方に關しては、人口や世帯数によって事業費で相当の差がある。運営体を実施している除雪等の事業については、地域の世帯数、人口の多いところ

へは、市の財源でやらなければならぬ等の財源のやり取りを検討する制度設計を考えて進めているところである。

**墓地管理のあり方について**

**質問** 墓地管理手数料の慢性的な未納額がある。承継者不明のケースもある中で、共同墓地を提案する。墓地を整備する段階にきていると思うが市長の見解を伺う。

**答弁** 仙北市条例も3年滞り消し、7年間管理者が行方不明等の使用権抹消を明記している。使用者死亡の継承については、親族の範囲を広げた継承指導を行いたい。共同墓地は、宗教の違いもあり難しい事がある。今後墓地管理の適切化を進めていきたい。

**白樺学級の方向性を問う**  
**質問** 空き教室を利用して行われるようになったが、寒い中で環境も悪く、児童が気の毒である。新年度予算で白樺学級の教育環境を整備する決断をして欲しいかどうか。

**答弁** (教育長) 白樺児童会の施設は老朽化が進み、耐震性、安全面、生活の快適さを考えると大変心配をして

いた。来年度からは、生保内小学校の空き教室(2教室)をお借りして運営する事で協議が調った。学校管理の問題上、簡易な区分が必要なので、翌年度事業で対応をしたいと考えている。

**空き家対策と空き地対策について**

**質問** いつ倒壊してくるかわからない空き家。緊急課題事項として解決してやるのが市の責務ではないか。空き地で草や木が伸び放題になって隣地に入り込んでいる現状。その解決方法について伺う。

**答弁** 空き家対策で、危険度の高い老朽家屋に対しては、撤去費用の一部助成等を今回の補正予算でお願いしている。空き家条例の設置については、法律上の問題等の整理も必要なので、少し時間を頂きたい。空き地対策については実態調査を踏まえ、住民から荒廃地、危険な箇所等の情報収集を行わなければいけないと思っている。住民の方々から情報・協力を頂きながら進めていきたいと考えている。

(熊谷一夫記)

# 一般質問

## ・田沢湖の環境再生と方向性について

田口寿宜 議員



**質問** クニマス発見により、田沢湖の水質改善を含む環境再生と地域の活性化を図る人々の意識醸成のための方向性を伺う。

**答弁** 現状は、鳴き砂と言われる美しい白浜はなく、湖畔周辺には、物語に登場する多くの歌人に詠まれた銘木が多数あるが、護岸浸食の影響から瀕死に直面している。レイクスポーツの主流になっていく水上バイクの遊戯人口の増加によるトラブルも多くなっている。

重要な問題は、田沢湖の酸性水である。改善策として、玉川酸性水中和処理施設による水質改善が進められているが、中和処理施設を通らない一部の強酸性水、湯川の流れる原因と考える。県ではこれまでの中和処理の検証と新たな水質改善策の検討が始まっている。期待をしている。

田沢湖再生は、予測困難な長い年月が必要である。次の世代の担い手にしっかりと伝えていくことが大切。玉川導水前の田沢湖の姿、導水の経緯や時代背景、クニマスの歴史、文化を正確に継承する作業を怠ってはいけない。市内の学校にとどまらず、計画の仮称ではあるが、田沢湖ナショナルトラストセンターの最大活用などで責務を果たせるのではと思う。田沢湖を命あふれる湖に再生するためには、市民の方々の力がなければいけないと思っている。市民の方々の活動を応援できるような体制づくりも必要と考える。

**質問** 10月18日に開催された火山砂防フォーラムにおいて生保内小学校五年生の研究発表は、防災の観点からの提案、指摘があったよう

に思う。研究成果を活用し防災への取り組みを考えるべきと考えるがどうか。

**答弁** 先の駒ヶ岳噴火がスロロンボリ型噴火で、観光の一助になった状況で認識されている方が非常に多いこと。次に仮に噴火があったとした場合、直近の経験だけで済ませてはいけないという大きな教訓をいただいた。防災かるた、火山防災に関するピトグラム（道路標識のようなもの）は、国交省でも利活用の検討を始めているとか。

仙北市は誕生の地であるので、当然活用状況等をイメージしながら検討している。

防災マップは、いろいろな情報を詰め込んだが、結果的には非常に見にくいとされている。駒ヶ岳に近い生保内地区、田沢湖地区の方々が、駒ヶ岳が噴火した際、初動をどうとるかというイメージをしっかりと心にとめることができるような状況を導かなければならない。すぐにも検討しなければならぬ。

**質問** 子ども議会を開催し、当局と議論する場を設けてはどうか。

**答弁**（教育長） 市内の子どもたちが、将来のまちづくりについて主体的に考えて提案できる場として、また、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献できる意欲的な人材の育成の場として絶好の機会であると考えられる。仙北市子ども議会をぜひ開催させていただきたい。

**質問** 本市は、文化、スポーツによる交流には最適な場所である。文化、スポーツ交流ゾーンの中核となり、かつ交流人口の増を目指すうえでも中途半端でない、しっかりとした総合体育館施設は必要であると考えられる。若者の新たな雇用の場の創出、市民同士の交流、災害時の避難施設ともなる総合体育館建設の考えについて伺う。

**答弁**（教育長） 仙北市体育施設マスタープラン策定委員会の中で、仙北市のスポーツ文化活動の中核となる総合体育館建設の建設をぜひ



子供達の大切な防災に関する提言

検討してほしいと提言をいただいた。

多様なスポーツ文化活動に対応したスポーツ施設が建設されれば、市民のスポーツ文化活動の活性化が期待できる。トップレベルの大会や合宿の誘致は、広く大曲仙北地域のスポーツ愛好者やジュニア層にレベルの高いプレーに数多く触れさせることができる。競技力の向上、人的交流や宿泊による経済的効果等、その相乗効果ははかり知れないとされている。

希望する総合体育館建設には20億円近い事業費がかかると見込まれる。調査検討したい。

**質問** 20億円近い事業費は確かに大きい。市民にとって必要な施設、市外、県外の方々も利用できる施設、行政として必要な施設ではないかと考えるがどうか。

**答弁** 必要であると考えているが財政状況を見るとなかなか荷が重い事業になる。プロスポーツ会社や応援しているプロスポーツ財団等もあるので外部の要因を整理し踏み出すタイミングとした。

（平岡裕子記）

# 一般質問

## ・行財政改革を問う

高橋 豪 議員



### 新公会計制度と外部監査の必要性について

**質問** 表題に掲げた制度を任用することで行政コストを完全に把握することが出来ると思うが「効率化 経費の最小化 組織運営の適正化」市長の考えはどうか。

**答弁** 議員のご指摘のとおりである。監査委員の意見を伺い検討を進めたい。もう少し時間を頂きたい。

### 適正な定員管理について

**質問** 人口一万人当たりの職員数は類似自治体と比較して仙北市は突出して高い、限られた財源から効率的にやる必要がある。知恵も絞らなければいけないと思う。市長の考えは。(表1参照)

**答弁** 職員数の削減は行政改革で最も大きな課題である。又急激な削減は市民サービスの低下に繋がる。行政に対する市民のニーズと民間以上の重要性を考え検討致したい。

### 公平・公正な人事と昇級、昇格等について

**質問** 職員の能力、実績を把握して昇格、適材適所の人事配置をしているか。部長・課長補佐迄の割合は仙北市だけが右肩上がりになっている。なぜこうなるか実態を伺いたい。(表2参照)

**答弁** 組織の再編により部署が増えたこと。職員の年齢構成が上がってきたことも要因ではないかと思う。自分としては部、課長クラスの仕事は把握している。

### 職員個々の稼働力について

**質問** 住民要望の多様化、高度化ニーズに答えていく課題がある。それに答えていくのは職員であると認識

している。

市長の職員の稼働力を引き出す為の秘策を問う

**答弁** 市の行政サービスを行う、その組織としては、市民の皆様方と共有する「職員」というのは行政財産だという考えがある。市民の皆様の期待に応える職員育成の為これからも、尻を一生懸

命たたいて負託に答えたい。

### 窓口業務の拡大について

**質問** 私はこの拡大策に注目している。各種証明書の宅配サービス、自動交付機の設置、コンビニでの証明書の交付等色々可能性を研究する必要もあると思うが、費用対効果も考えなくては

表1●職員1万人当たりの一般行政部門の職員数

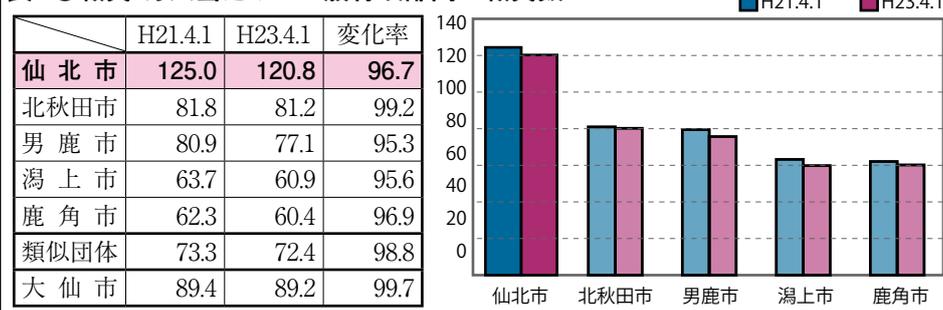
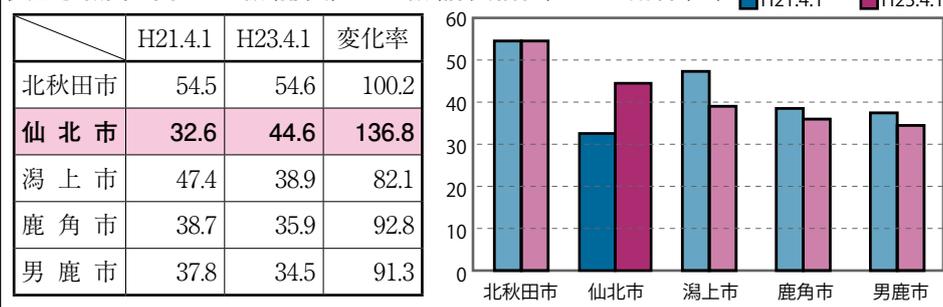


表2●職員に占める7級(部長)から4級(課長補佐)までの割合(%)



期待される窓口業務の利便性 (田沢湖庁舎)

けないと思うが市長の考えを伺う。

**答弁** 色々提案を受けたが、今年中に内容等精査させて頂く、システム導入など経費をどうするか議論が必要と思う。

(稲田 修記)

# 一般質問



## ・市長の政治姿勢を問う

民政会議 阿部則比古 議員

**質問** 同じ仕事をしながらも、市直営の保育園・幼稚園の正職員と臨時職員の給与におよそ2倍の開きがある。大変不公平な状況であり、社会問題にもなっている。本市では今後どうするつもりなのか伺う。

**答弁** これまで庁内検討会、また昨年度設置した保育園・幼稚園の在り方検討会からの提言と現状の運営形態の課題、問題について検討を重ねてきた。保留児童・待機児童問題・保育の質の向上。また6割近くが臨時保育士の

状況で、さらに今後5年間で14人の正職員が定年になる。こうした中で保育士の確保、老朽化した施設も多く臨時有期雇用では保育士が集まりにくい状況にあり(待遇も2重基準では仕事に対するモチベーションを高める職場環境とは言えない状況である。しかし現状では全ての職員を正規職員として待遇することは困難である。今後国、県の支援策の動向を注視しながら施策に反映させるため、教育委員会と連携していくと同時に議員の皆様と、協議を重ね、

25年度中にはしっかりとした方向性を導き出したい。

**質問** 保育分野は門脇市長のステータスとも言える分野でもあり、特に子育て支援は選挙公約として色々話していたと思うがなぜこ

**答弁** 私のアウンスのしかたが悪くて、以前の議会



待機児童の解消が図られた市立角館保育園

で今後保育所については民営化を検討すべき時期だと申し上げて、その後保育士さん達と協議を持ったが、十分な理解をえられなかった。いずれにしても具体化していない現状を釈明する材料にはならないと思う。

**質問** 国勢調査の直近の報告によると、秋田県は人口減少が日本一で、2050年には県民人口が54万人前後まで減少するとしているが、これほど激しい減少率になると、各自治体は財

政がついて行けず、2030年頃から県内自治体の財政破綻が相次ぐと言う学者もいる。本市の中長期的な財政が非常に心配だ、市長はどのような展望をもっているのか伺いたい。

**答弁** 合併による旧3町村28年度から始まって32年度に終了し、33年度には1つの市として算定額が計上される。試算ではおよそ13億円の削減と予測している。国政選挙の行方も不明な中で、明らかなことは医療や福祉などの歳出は確実に増えるだろう。秋田県の高齢化率は全国トップの30・6%であり、本市は県内で9位だが高齢化社会に制度設計が追いつかない状況にある。赤字か黒字かという切り口ばかりの議論は自治体の在り方の否定に繋がる。歳入歳出は工夫次第でまだ増減出来る可能性がある。

**質問** 財政が破綻して除雪もままならない様な状況になれば買い物すら出来ない、(健全な)仙北市は我々の皆であり今後の真剣な財政運営を願う。

**答弁** 門脇市長のマネIFESTOに

対する政策検証の評価が出

揃った。大変厳しい結果だが市長の政治手法に矛盾があると思う。こうした大風呂敷的な政策を現実に実現してゆくためには職員一人一人をきっちり掌握し、議会対策をしつかりやって一国一城の主たる権力者として、相当強権的な手法で結果を出さなければならぬ。しかしそう出してきた答申に手心も加えずに政策に反映させる様なやり方のどこに整合性があるのか伺いたい。

**答弁** 阿部議員もまた仙北市民も仙北市長に対して安定した行政運営、強力なリーダーシップを求めていることを理解している。乱世の世、ボトムアップや合議主義を重視しては、変革のスピードについていけない、判断が素早いトップダウン方式が最も必要な社会情勢だとの意見もある。しかし私はボトムアップ型を是とする人間であり、多くの市民の幸せを作り出すには一人でも多くの市民の話を聞き、出来るだけ多くの市民が政策決定プロセスに参加すべきだと考えている。

(狐崎捷琅記)



# 総務文教常任委員会

本会議において付託された案件は、条例関係2件、特別会計補正予算2件、その他1件、請願1件の計6件である。また、予算常任委員会より、平成24年度仙北市一般会計補正予算(第6号)の内、当分科会に係るものが分担された。

## 議案第112号

### 仙北市学校給食センター条例の一部を改正する条例制定について

**問** 角館児童館に大曲養護学校の分教室が開設され、児童・生徒に給食を提供する事に伴い、一部改正するものがある。給食費の額とメニューはどのようなものか。

**答** 給食費については、市内の小中学校と同額とし、メニューについても同一とする。特別支援学校の児童生徒には、個別にきざみ食が必要となる子供やアレルギー体質の子供については、現在もアレルギーとなる食材についての対応をしているので、市内の小中学生と同一の対応をして行きたい。

**問** 食材の放射線測定はどのようにするのか。

**答** 現在は、供給する側である程度測定したうえで出荷されているが、仙北市の給食センターでは、市民の不安を招かないように産地についてはかなり配慮している。また、県で行っている放射線測定を月2回程度、各給食センターから食材を持ち込んで測定を受けている。結果については、ホームページ等で公表している。更に色々な方法で給食の安全性について周知して行きたい。

### ○採決の結果

条例関係2件、特別会計補正予算2件、その他1件については全会一致で原案を可とすべきものと決定した。

## 請願第4号

### 伝建群保存地区における保存整備計画の早期実現を求める請願書

請願の趣旨に賛同し、全会一致で採択するものと決定した。

## 平成24年度仙北市一般会計補正予算(第6号)

### ○総務部関係

#### ・クニマス里帰りプロジェクト事業費

**問** 総務的に多額の金額を投入して行くとなると、行政の執行目的をどこに置くかという事を決定してから予算を執行すべきと思う。しかし、現状はクニマスという話題に価値観を求めた行政執行であり、住民の納得を得られるか疑問である。終着駅をどこに置くのか。

**答** クニマスがきっかけとなり事業が始まった。完全に田

沢湖を再生できるかどうかという事はあるかと思うが、目的としては田沢湖の再生という大きなテーマとしている。

**問** 田沢湖の再生を求める事とすれば、東北電力に対して水利権について交渉をしているか。それだけの行政目的を持っているとすれば、当然、東北電力との交渉も平行して進めて行かなければならない。

**答** これをやったという話しを聞いた事がどうか。

**答** 東北電力についてはプロセスの問題で、そうした事が

生じて来ると思うが、まだそこまで至っていない。県のプロジェクトで水質の検討等進めているが、そうした事も踏まえて行かなければならないと思う。ただ、平成28年3月31日に水利権が切れる事から、話し合いに向けて早めに準備を進めて行かなければならない。

### ○教育委員会関係

#### ・常設・企画展示費、片岡鶴太郎展

**問** AKTとの共催という事であるが、総額ほどの位になるのか。また、開催時期が角館の観桜会と重なるよう、旧角高グラウンドの駐車場を利用するとなると、かなりの混雑が予想されるが、開催時期をずらすなどの考えはないか。

**答** 総額は約2千万円弱になるものと想像しており、その内、市の負担分は約80万円になる。時期については、AKT事業開発部の方から桜の名所の角館でという事で、是非この時期に行って頂きたいという事でお受けした。車等の混雑解消については、関係の方々に呼び掛けて行き、駐車場の件も含め何とかうまく対応していきたい。



再生に向けてのプロセスを大切に(厳冬の田沢湖)

(田口寿宜記)



# 市民福祉常任委員会

本会議から付託された案件は3件、予算常任委員会から付託された案件は1件である。

## 議案119号

平成24年度仙北市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

## 議案120号

平成24年度仙北市介護保険特別会計補正予算(第2号)

前記2議案は全会一致で可決

## 議案126号

公の施設の指定管理者の指定について(仙北市民浴場東風の湯)

問 温泉単体で利益を出すのは難しいと思う。市から千二百万の委託料のほかに今後、修繕や大規模改修の可能性が予測される。指定管理を続けるだけで、莫大なランニングコストがかかる。指定管理者となるアロマ田沢湖も含め東風の湯の経営について検討するところになっていくのではな

いか。  
答 市民の憩いの場で、福祉

の面で機能しているので指定管理の形をとっている。民間の方々からは公の財源を入れてしかも赤字経営だということとは市民として放っておいてよいのかと問われる。第3セクターとしての憩いの場づくりという段階は過ぎてしまっているという認識で、経営コンサルタントの方に、市内の第3セクターの経営分析をしていただき、それをもって人事の削減や共通経費の削減を図り、第3セクターに整理統合について提案を行った。アロマ田沢湖では、事業展開のメニューを模索し、社員で勉強会を開催し知恵を絞り経営改善も図っている。早急な整理統合は回避してほしいという願いがあ

る。経営努力が見えるような成果があればそのあとのことも考えられるが、そうでない場合は、提案した内容で進めるしかないと伝えている。

## 賛成討論

温泉のみでの利益は出にくいことは東風の湯に限ったことではないが、この後、修繕

や大規模改修が予想され、その時に、施設を維持管理していくことができるのか心配である。憩いの場を提供することとは大変素晴らしいが、一方では限られた財源の中で維持管理運営をすることが厳しくなっているのではないかと。これを機会に、東風の湯のあり方、これを指定管理する第3セクターのアロマ田沢湖やその他の第3セクターについても、この後どのように効率化していくのか考えていただくことを付して賛成である。

全会一致で可決された。

## 議案第114号

平成24年度仙北市一般会計補正予算(第6号)

交通防犯対策費について

問 市の管理、町内会等で設置し管理しているものが混在しているが今後の管理体制はどうか。

答 省エネ化と長寿命化の観点から、来年度から効率性が良くなるLED化を進める。市の管理、地域で管理している街灯を一緒の事業の中で進めたい。管理基準の棲み分けを検討したい。

交通指導隊費について  
問 年間の出勤回数と備品購

入費の制服代について  
答 58回で延べ人数は690人。4・8・9月は行事等が多くなっている。今回は3名分の冬服を購入したい。

問 交通指導隊の編成は37名であるが人数は妥当か。

答 出勤回数が多くなる時期は振り分けが大変なようだが、ローテーションを考えると必要と思う。

保育園入所待機児童等の支援事業費について

問 託児サービスを担うボランティア応援も必要と考えるが検討はしているか。

答 田沢湖、西木地区にも遊休施設を利用しながら託児サービスをしたい。県の講習を受けられる方が必要になる。県の補助金もあるが、無くても市の単独財源でボランティアの育成を考えた

危険空き家対策費について

問 2分の1補助で上限が50万円の3棟分150万の対象家屋はどこか。

答 特定の空き家を想定したものではない。調査結果、最も危険空き家が4棟あった。

問 補助金を交付にあたっての交付要綱はあるか。

答 素案がある。解体の意思があり経済的理由で解体できない方に支援する。所有者不明、意思決定が無い場合などは今後制定予定の条例で解決を図る。

(平岡裕子記)



委員会の審査風景



# 産業建設常任委員会

本会議より付託された議案は9件、請願1件、予算常任委員会より付託された議案は1件である。

前記7議案は、全会一致で可と決定

## ■議案第127号

公の施設の指定管理者について（仙北市外町交流広場）

問 指定管理者の経費削減の主な内容について。

答 こまめな節電により、光熱水費が削減された。

### ◎討論

行財政改革の中での指定管理者のあり方について、更なる向上と施設の構築を目指して、努力して欲しいとの意見を付して賛成である。

全会一致で可と決定

## ■議案第128号

公の施設の指定管理者について（かたまえ山森林公園等）

問 指定管理者への応募から選定に至るまでの経緯、業務内容について。

答 事前の説明会には3社が参加し、応募があったのは2社である。指定管理者候補者選定委員会で審査の結果、田沢湖自然体験センターが候補

者として適当である団体と認められ、答申を受けたものである。業務内容は、4月から10月までの7ヶ月間、施設を活用し、観光客に自然体験をさせていただく取組みを行っている。当該団体は、田沢湖キャンプ場も運営しており、ノウハウを備えた団体で、利用者、販売額共に増加傾向にあり安定して管理できる団体である。

### ◎討論

議案第127号同様に、更なる努力を望むとの意見を付して賛成する。

全会一致で可と決定

## ■請願第3号

県道広久内角館停車場線普沢踏切付近における道路改良について

利用者の安全を第一に考え、全会一致で採択すべきものと決定

## ■議案第114号平成24年度仙北市一般会計補正予算（第6号）

大規模肉用牛肥育団地整備事業費補助金に関して

問 なぜ今まで、地元住民や議会等関連する所へ理解を得る説明や働きかけをしなかつたのか。

答 平成22年10月に全農を紹介して大平畜産工業を紹介されたが、その後、具体的な提案は無かった。今年の11月7日に地権者との合意が得られたという状況から物事が急変していく。土地が内諾を得て、出資するJAも役割を担おうとなり、それを県が察知して応援しようとする状況が11月中旬である。秋田県が、基金を取り崩してまでも、12月補正に上げてくれたと感謝したいところだが、こちら（市当局）で、一番大事な地元の方への情報の提供が遅れていくという事があったのは、大変申し訳ないと思っている。

従って急転直下で誘致する環境が動いた中で、説明不足が生じた事は理解して欲しい。

問 北海道鹿追町へ行つた時の状況を聞かせて欲しい。

答 今年の8月に現地を視察してきた。畜舎に入るといくらかにおいはするが、外に出るとほとんどにおいはしない。汚水処理については、敷物（特殊なチップ）に吸わせて処理しているので汚水としては出ない。

### ■委員会意見

大規模肉用牛肥育団地整備

事業費補助金については、その事業の必要性については各委員が一致して認めるところであり、仙北市の畜産振興のみならずあきた県全体に及ぼす波及効果も期待できるものであり、水田活用の面からも、稲WCSや飼料米の増産が見込まれることや、良質な対比の投入による循環型農業の推進が期待される。

しかし、この事業の取組み過程においては、議会への説明や建設予定地域住民への説明、協力の依頼や不安解消に向けた取組みが時期を逸した事。また、準備不足、努力不足は市当局の責任重大である。

地域住民の理解・協力をなくしてこの事業の推進は不可欠であり、一刻の猶予する事なく市を挙げてこの課題解決に取り組む事が必要である。又、市当局においては、市政運営のパートナーとして議会及び住民を軽視することなく、徹底した情報公開が図られることを望むものである。本分科会は非常に重い判断をし、この予算は当該地域の理解・協力が得られた後に執行すべきものと意見を付するものである。

（熊谷一夫記）

# 議会報告と懇談会

11月18日(日) 午前10時から  
3地区で実施した

地区	田 沢 湖	角 館	西 木
会場	神代就業センター	角館交流センター	西木公民館
参加市民数	11人	12人	8人
出席議員	八柳良太郎 小田 嶋忠 荒木田俊一 熊谷 一夫 平岡 裕子	稲田 修 安藤 武 小林 幸悦 田口 寿宜 佐藤 直樹 門脇 民夫	黒沢 龍己 阿部則比古 田口 喜義 高橋 豪
議会報告	総務文教常任委員会	市民福祉常任委員会	産業建設常任委員会報告
意見交換	市立角館病院について 上水道について 水について 教育関連について オスプレイについて 市政について 生活のインフラについて 合併後の検証について	岩手県野田村からののがれきの受け入れについて 市役所角館庁舎の移転先について 市立角館病院建設について 市役所職員について 市長について 市議会について	市立角館病院について 庁舎建設について クニマス関連事業について デマンドタクシーについて 夏いちご栽培事業について 国道46号線のバイパスについて 市長公約に対する議会対応やあり方について 選挙公営制度に対する意見
要 望 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設場所は、遠い地域も考慮すべき。</li> <li>上水道事業に当たっては、地域住民に事前に説明すべき。</li> <li>中学校にプールは必要である。</li> <li>仙北市には、文化面でもいいものが沢山ある。地域の声を聞いていい方向にもっていかしてもらいたい。</li> <li>仙北市の上空を飛ばそうとしているオスプレイに危機感をもっている。県の対応が非常に悪い。意見書が生かされるように。</li> <li>諮問委員会が多すぎる。議員が十分に議論すれば間に合うこともある。</li> <li>地域運営体も議会と議論をしたい。</li> <li>仙北市は、物事へのシナリオがなさすぎる。基本がほしい。</li> <li>神代地区は公共下水道が遅れている。大事な課題である。</li> <li>合併して6年になる。この間の検証をしっかりとやるべき。</li> <li>保育園の民営化が県内でも進んでいるが、住民と十分話し合いをもって出発してほしい。</li> <li>議会報告会には、議長・副議長は出席すべきである。</li> <li>議会だよりは、議会の状況が分かるように丁寧に知らせたほうがよい。</li> <li>行政を動かすのは市民の声を届ける議員にある。</li> <li>議員の報酬は高くてもよい。市民のためにしっかりとやってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>角館庁舎の移転先について、既存の施設利用として、角館駅辺りに建設してもいいのではないか。</li> <li>市立角館病院は、大曲の組合病院よりも早く建設すべき。</li> <li>病院建設場所は、道路のアクセスがわるい。</li> <li>患者に対して病院の職員・看護師の態度が悪い。改善されなければ、新しい病院を建設しても患者が他に流れる。</li> <li>人口に対して、市の職員が多いのではないか。</li> <li>市の職員は、市民に対し上から目線で公僕としての自覚がないのではないか。</li> <li>職員は、3年～5年は同じ場所で仕事をさせるべきでないか。</li> <li>市長は、一週間の半分は役所に腰を据えて、職員の状況を見て、行政を行うべき。</li> <li>職員の研修制度の充実が大事。</li> <li>定例議会を旧町村ごとに実施してほしい。</li> <li>議員報酬が高い。議員定数を削減すべき。</li> <li>議会として、仙北市の事業仕分けをやるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>田沢湖病院は合併の駆け込みの雰囲気があった。角館・田沢湖病院は一体化すべき。</li> <li>病院の建設場所は、中心的な場所にすべきでなかったか。</li> <li>病院建設以前に、経営改革・接遇などを論ずるべきである。新庁舎を建設する必要は、本当にあるのか。西木庁舎は築年数が一番新しい。既存施設を利用するなどの考えはないか。</li> <li>クニマス事業に財源を使って何の効果があるのか。水質改善等は100年以上かかる話だしパフォーマンス的で観光要素もない。</li> <li>デマンドタクシーは、火・金曜日に乗客が集中して一度に乗りきれない。せめて、主要道路だけでもスマイルパスのようなものを運行できないか。</li> <li>夏いちご栽培の件について、詳しく説明がほしい。</li> <li>国道46号線は、太平洋と日本海をつなぐ産業の流通経路であるため秋田道へのアクセスなどを提案し国に対し、要望活動を行うべきでないか。</li> <li>市長の所得10%アップの公約をはじめ達成できていないものが多いのではないか。チェックを強化すべきである。</li> <li>選挙公営制度については、公営と名がつくくらいであり、市民のお金で選挙をするという感覚になる。議員には、責任をもって頑張ってもらえるので良いと思う。</li> </ul>
		 <p>市民より多くの意見・要望が寄せられた</p>	

# 先進病院の視察研修

視察先

宮城県栗原市栗駒病院  
みやぎ県南中核病院

## 栗駒病院について

平成21年3月完成、病床数一般45床、療養30床でオール電化の施設である。特徴として、栗原市栗原中央病院のサテライトとして慢性期医療中心の機能、他医療機関との病院連携の推進を図っている。民間の介護施設が病院を囲む形で整備され有効活用されている。

救急は、当直医師による夜間救急対応のため専門外の場合には断るケースもあるが月に約11件程受け入れている。保育所は医師、看護師、事務職員が利用できるよう整備されている。

接遇については、細やかに行っているが、理解や言葉づかい等への苦情については、接遇改善委員会を立ち上げ対応している。

## みやぎ県南中核病院について

1市3町、角田市、柴田町、村田町、大川原町の約10万の

医療圏であり、平成14年8月開院し、その時に、155床の町立大河原病院を廃院にしている。65床の村田国保病院は無床化、診療所にすべきとなったが、結局は19床の有床診療として残ったが、大赤字である。そうした中で300床規模の中核病院が建設された。

病院建設の基本理念は、急性期医療に特化して地域完結型医療を目指すというものだった。

### 重点医療として

- 急性期高度医療(2次医療)及び地域医療連携
- ①救急医療 ②悪性新生物 ③脳血管疾患 ④循環器疾患

### 病院理念

地域に信頼される質の高い親切的な医療サービスの提供

### 医師が集まる条件とは

一、病院の役割、方向性が明確であること。地域医療支援病院と支援病院として、紹介患者を診ることから一歩もずれないこと。

二、メリハリのある勤務態勢  
地域で医療を守り発展させるといふ風土があること。住民と行政の理解と協力が必要である。

三、待遇に対する配慮

医局人事により派遣された医師が、また着任したくなるような病院側の対応も必要で、医療スタッフにとって魅力的な病院であること。

四、自治体病院の使命等

不採算でも民間にできないことをやるのが自治体病院と割り切るしかない。最も大切なことは「地域の救急をどうするか」ということである。

どんな救急体勢にするのかを明確にしなければ、ますます医師がいなくなってしまう。一線を明確にして、団体の病院の救急体勢を考えていかないといけない。

(小田嶋忠 記)



みやぎ県南中核病院の受付フロア(全館は全米を思わせるロビーホテル一流)

# 傍聴席

## 傍聴席から一言

松岡洋一(角館町)

初めての傍聴をさせて頂きました。

傍聴席の狭いのに驚きました。傍聴人が少ないから丁度良いのかな？

一般質問、答弁を聞きました。時間内で質問や答弁をしなければならぬので事前の内容を打ち合わせしているでしょう。余りにも質問や答弁がすんなりと進むので残念でした。

議論など全くなく疑問に思つてなりません。想定外の質問を出して興味ある議論をどんどん出し合えたら市議会は活気があつて面白いと、傍聴者が興味を持って参加者は増えるのではないのでしょうか。

創意、工夫をしてもよろしいのではないのでしょうか。次の傍聴を期待します。

### 広報委員会から一言

一般質問は通告制度をとっているのに通告以外の質問はできないことになっていきます。

## 人事案件

教育委員に安部氏再任

平成24年12月21日で任期満了となる安部哲男氏の再任命案を全会一致で同意した。

任期は、平成24年12月22日から平成28年12月21日までとなる。

## 編集後記

総選挙が公示された12月の議会に門脇市長の政策の検証結果報告書が二つ提出された。

特に市民の期待の大きかった総合産業研究所を取り上げる。これは「4年間で所得10%以上増やす」魔法の玉手箱として市長のマニフェストの最大の目玉政策であった。

検証委員会は「鳴り物入りで誕生した所長と専門員が契約半ば(1年余り)で事業を去つて行ったことは残念」市民に所得向上の欠片も示せなかった」という厳しい評価をした。

職員と民間のギャップの検証が必要か。

(八柳良太郎 記)